

普及・情報専門委員会の検討結果報告（案）

普及・情報専門委員会

○ 検討項目

(1) 広報（普及情報）担当者のネットワーク構築

委員会の機能として、会員機関で連携して取り組むべき課題への対応に向け、各機関の普及情報（広報）担当者の交流及び情報交換を促進するため、担当者ネットワークの構築に向けた検討を行う。

【中間報告（1月幹事会）】

つくば市が構築・運用している広報担当者のメーリングリストなど、同様な機能を持つネットワークが既に存在していることから、現在のところ筑協が改めて会員機関を対象にメールベースでのネットワークを構築する必要性は低いものの、face to faceでの広報担当者同士の交流や意見交換は一定のニーズがあるとの認識の下、他機関による取組も参考にしつつ、ネットワークを構築する目的を明確にしたうえで、広報担当者を対象とするネットワークの構築について引き続き検討する。

(議論いただきたいポイント)

- ・ 筑協会員機関の広報担当者同士の face to face での交流や意見交換について、どの程度のニーズがあるのか、何を目的とするのか、単なる交流や意見交換でいいのか、また、例えば茶話会のような交流会を開催したとして、どのくらいの広報担当者が集まるのかといった問題点がある。
- ・ 他機関における取組事例を踏まえ、筑協としての face to face による交流や意見交換について、その必要性も含めて検討してはかがか。

(事務局案)

- つくば市が構築・運用している広報担当者のメーリングリストなど、同様な機能を持つネットワークが既に存在していることから、少なくともメールベースでのネットワークを新たに構築する必要性は低いとの結論に至った。しかしながら、ネットワークの構築は筑協に求められている役割そのものであることから、今後、ニーズが顕在化した場合には、その都度、必要性を含めて委員会で検討することとする。

(2) 委員会のオープン化の推進

委員機関以外の普及情報（広報）担当者への委員会の傍聴機会の提供、委員会資料や議事録の公開など、委員会のオープン化の推進に取り組む。

(方針)

- 平成30年1月に開催した委員会から、原則、公開とし、会員機関の関係職員が傍聴できるようにするとともに、配布資料及び議事概要を筑協ホームページで公開する。

(3) 筑協以外の連携組織等との連携

筑波研究学園都市及び会員機関の効果的な情報発信を推進するため、筑波研究学園都市記者クラブとの交流について検討を行う。

【中間報告（1月幹事会）】

記者クラブとの交流については、既に個別に各機関で実施しているのが現状であり、改めて筑協で実施する必要性には疑問がある。このため、記者クラブとの交流の目的を明確にするとともに、会員機関・記者双方のニーズの有無を確認したうえで、引き続き必要性を含めて検討していく。

(議論いただきたいポイント)

- 記者クラブとの交流に、会員機関は関心があるか。どのような目的で記者クラブとの交流会を実施するか。
→記者側はニーズあり（資料3参照）
- 記者クラブとの交流会を実施するとした場合、対象者や内容等、どのような形で実施するか。（資料4参照）

(事務局案)

- 記者クラブと筑協会員機関間の交流のきっかけをつくり、今後の筑波研究学園都市及び会員機関における効果的な情報発信の促進につなげることを目的として、交流会を試行的に開催する。また、実施後のアンケート調査結果等を踏まえ、交流会継続の必要性を含め、今後の実施方法について検討する。

(4) 筑協が行うべき情報発信等の方向性や内容

筑協ホームページの改訂から5年が経過するとともに、筑協を取り巻く環境が変化していることを踏まえ、真に筑協が行うことが必要なPR・情報発信の方向性や内容を再整理する。

【中間報告（1月幹事会）】

- HPによる情報発信については、引き続き、「筑協ホームページの改訂」（平成24年3月普及・情報専門委員会）を基本方針にホームページを通じて情報発信するとともに、“筑波研究学園都市”を代表する組織として対外的なPRに向けて、調査データや関連機関サイトを活用した“サイエンスシティ”としての情報発信の充実を図ることとし、ホームページで発信していく情報の内容・項目等について引き続き検討していく。
- サイエンスQについては、会員機関の研究者が地域の小中学校で出前授業を実施するサイエンスQについて、予算の制約やその効果が限定的であることから授業状況のラジオ放送は取りやめることとする。しかしながら、授業実施校はもちろん、講師となる研究者側にも一定の要望があることを踏まえ、会員機関への協力講師派遣依頼・実施希望学校の募集・実施校の決定までは、これまで通り筑協事務局で実施していくこととするが、その後の調整・授業実施については学校と講師間で直接実施してもらう形で事業を継続していくこととする。

(確認いただきたいポイント)

- 「サイエンスシティ」としての“つくば”のイメージを構成するのに必要な情報（研究機関・研究者の集積、最先端の多様な研究、イノベーションを支援する環境など）をまとめて発信するページの作成を検討中。

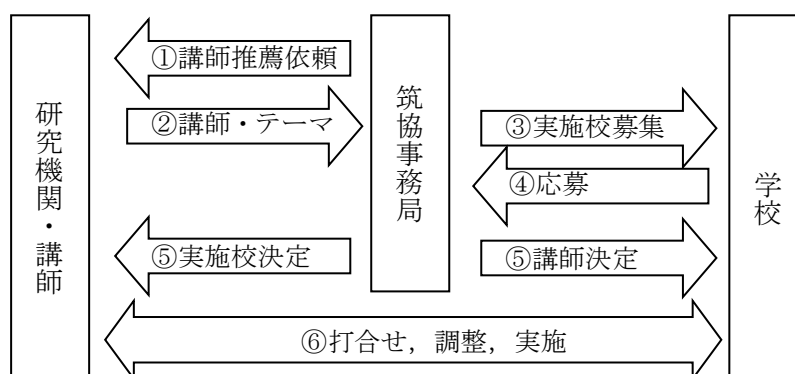
(資料5参照)

(事務局案)

- ホームページによる情報発信については、「サイエンスシティ」としての“つくば”のイメージを構成するのに必要な情報（研究機関・研究者の集積、最先端の多様な研究、イノベーションを支援する環境など）既存情報を活用しつつ発信するページを作成していくこととする。
- サイエンスQについては、会員機関の研究者が地域の小中学校で出前授業を実施するサイエンスQについて、予算の制約やその効果が限定的であることから授業状況のラジオ放送は取りやめることとする。しかしながら、授業実施校はもちろん、講師となる研究者側にも一定の要望が

あることを踏まえ、会員機関への協力講師派遣依頼・実施希望学校の募集・実施校の決定までは、これまで通り筑協事務局で実施していくこととするが、その後の調整・授業実施については学校と講師間で直接実施してもらう形で事業を継続していくこととする。

【事業実施のイメージ】



【参考：他の類似出前授業制度】

- ・産総研「実験教室」（旅費・実費負担要，講師との調整要）
- ・市教育委員会「つくば科学出前レクチャー」（基本無料，講師との調整要）
- ・エキスポセンター「科学出前活動」（基本無料，講師との調整要）
- ・県教育委員会「おもしろ理科先生」（旅費負担要，講師との調整要）

(5) つくばの研究コミュニティポータルサイトとの連携

つくば全体の研究活動や連携の充実を図ることを目的として、会員機関の実務担当者が開設・運営を予定している研究コミュニティポータルサイトについて、開設後の利用や運営の状況を見極め、連携の必要性について検討を行う。

【中間報告（1月幹事会）】

研究コミュニティポータルサイトは、筑波研究学園都市内の研究者間のコミュニティを可視化するものであり、まさに筑波研究学園都市に求められている研究交流の拡大に資することが期待できるものであることから、当初予定よりサイトの一般公開が遅れているものの、筑協として支援するにふさわしいかどうか、どのような支援が可能か見極めるため、引き続き運営状況を注視していく。

(議論いただきたいポイント)

- 当初予定より進捗が遅れているものの、筑協として運営するにふさわしいかどうか見極めるため、引き続き開設後の登録・運営状況を注視することとしてはどうか。

(事務局案)

- 研究コミュニティポータルサイトは、筑波研究学園都市内の研究者間のコミュニティを可視化するものであり、まさに筑波研究学園都市に求められている研究交流の拡大・促進に資することが期待できるものであることから、提案者による一般公開は当初予定より遅れているものの、筑協としてどのような支援が可能か、またはどのような関わり方が適当か、引き続き提案者と連携しつつ運営状況を注視していく。

【参考：コミュニティポータルサイトの概要】

○目的

つくばには多くの研究コミュニティが存在するが、それらを外部から全体を俯瞰して見ることが出来るよう、つくばに存在する研究コミュニティをまとめて可視化し、情報に容易にアクセス出来るようにする。

○サイトの概要

- ・承認された研究コミュニティの各種情報（メンバー、内容、開催イベント、ニュースなど）を掲載
- ・各種情報は研究コミュニティが投稿・更新・管理
 - ・分野、キーワードによる絞り込み機能によりコミュニティを検索可能
 - ・つくばとの連携に興味がある研究者がターゲット

以上